

「パーソナリティ障害」について知ろう ～支援者の心得～

2024年11月22日

こころの健康センター 野々村司

パーソナリティ障害の概念

パーソナリティ特性の平均からの偏りであり、実際に問題となるのは、「その異常性のため、**自分自身が**悩み、あるいは**社会が**悩むもの」
(大熊輝雄：「現代臨床精神医学」12版より)

本人自身が悩んでいる場合もありうる、ということを、まずは理解

これからご紹介する「接し方のコツ」は、あくまで一例で、それぞれの方に対し、よりふさわしい接し方もあると思います

※実際には、さまざまな気質が混合しており、簡単には分類できない

パーソナリティ障害の分類

猜疑性/妄想性パーソナリティ障害
シゾイドパーソナリティ障害
統合失調型パーソナリティ障害

A群 「変わった人」
(統合失調症に似た症状)

反社会性パーソナリティ障害
境界性パーソナリティ障害
演技性パーソナリティ障害
自己愛性パーソナリティ障害

B群 「迷惑な人」
(躁状態に似た症状)

回避性パーソナリティ障害
依存性パーソナリティ障害
強迫性パーソナリティ障害

C群 「不安な人」
(うつ病、不安症に似た症状)

「DSM-5精神疾患の分類と診断の手引き」より

A群パーソナリティ障害

猜疑性/妄想性 (Paranoid Personality Disorder)

不信感と猜疑心、被害妄想

シゾイド (Schizoid Personality Disorder)

社会的孤立、ひとりを好む、他者への無関心

統合失調型 (Schizotypal Personality Disorder)

奇妙、風変わりな思考と行動

A群パーソナリティ障害

(参考) 統合失調症の分類

妄想型統合失調症：

妄想や幻聴が主体、人格は比較的保たれる

緊張病型統合失調症：

興奮や昏迷（意志の表出や行動が認められない状態）、奇異な言動が特徴

破瓜（はか）型統合失調症：

感情の平板化、自閉傾向が特徴、若年発症、人格水準低下の傾向

A群パーソナリティ障害

猜疑性/妄想性パーソナリティ障害

「DSM-5精神疾患の分類と診断の手引き」より

- (1)十分な根拠もないのに、他人が自分を利用する、危害を加える、またはだます、という疑いを持つ
- (2)友人または仲間の誠実さや信頼を不当に疑い、それに心を奪われている
- (3)情報が自分に不利に用いられるという根拠のない恐れのために、他人に秘密を打ち明けられない
- (4)悪意のない言葉や出来事の中に、自分をけなす、または脅す意味が隠されていると読む
- (5)恨みをいだき続ける（つまり、侮辱されたこと、傷つけられたこと、または軽蔑されたことを許さない）
- (6)自分の性格または評判に対して他人にはわからないような攻撃を感じ取り、すぐに怒って反応する、または逆襲する
- (7)配偶者または性的伴侶の貞節に対して、繰り返し道理に合わない疑念をもつ

A群パーソナリティ障害

猜疑性/妄想性パーソナリティ障害

接し方のコツ、、、？

必要以上に親しくなり過ぎない
＝適度な距離を保っておく

本人に対しては、できるだけ中立的な立場で

A群パーソナリティ障害

シゾイドパーソナリティ障害

「DSM-5精神疾患の分類と診断の手引き」より

- (1)家族の一員であることを含めて、親密な関係をもちたいと思わない、またはそれを楽しみと思わない
- (2)ほとんどいつも**孤立**した行動を選択する
- (3)他人と性体験をもつことに対する興味が、もしあったとしても、少ししかない
- (4)喜びを感じられるような活動が、もしあったとしても、少ししかない
- (5)第一度親族以外には、親しい友人または信頼できる**友人がいない**
- (6)他人の賞賛や批判に対して**無関心**に見える
- (7)情動的**冷淡**さ、離脱、または**平板**な感情状態を示す

A群パーソナリティ障害

シゾイドパーソナリティ障害

接し方のコツ

不用意に本人の内面に入りすぎない（内面の聖域を侵さない）

一定の距離をおいた応対を

A群パーソナリティ障害

統合失調型パーソナリティ障害

「DSM-5精神疾患の分類と診断の手引き」より

- (1)関係念慮（関係妄想は含まない）
- (2)行動に影響し、下位文化的規範に合わない**奇異な信念**（例：迷信深いこと、千里眼、テレパシー、または第六感を信じること；子どもおよび青年では、奇異な空想または思い込み）
- (3)普通でない知覚体験、身体的錯覚も含む
- (4)**奇異な考え方と話し方**（例：あいまい、まわりくどい、抽象的、細部にこだわりすぎ、紋切り型）
- (5)疑い深さ、または妄想様観念
- (6)不適切な、または収縮した感情
- (7)**奇妙な、風変わりな**、または特異な行動または外見
- (8)第一度親族以外には、親しい友人または信頼できる人がいない
- (9)**過剰な社交不安**があり、それは慣れによって軽減せず、また自己卑下的な判断よりも妄想恐怖を伴う傾向がある

A群パーソナリティ障害

統合失調型パーソナリティ障害

接し方のコツ

本人の発想、世界観を尊重

その上で、現実と折り合えるような支援や配慮

B群パーソナリティ障害

反社会性 (Antisocial Personality Disorder)

良心の欠如、規律の無視、他者を利用、衝動性、共感の欠如

境界性 (Borderline Personality Disorder)

情緒不安定、対人関係不安定、操作性、衝動性、両価性

演技性 (Histrionic Personality Disorder)

自己顕示欲

自己愛性 (Narcissistic Personality Disorder)

誇大性、特権意識、傲慢さ、共感の欠如

B群パーソナリティ障害

反社会性パーソナリティ障害

「DSM-5精神疾患の分類と診断の手引き」より

- (1)法にかなった行動という点で**社会規範に適合しない**こと、これは逮捕の原因になる行為を繰り返し行うことで示される
- (2)**虚偽性**（繰り返し嘘をつくこと）、偽名を使うこと、または自分の利益や快樂のために人をだますことによって示される
- (3)**衝動性**、または将来の計画を立てられないこと
- (4)いらだたしさおよび**攻撃性**、これは身体的な喧嘩または暴力を繰り返すことによって示される
- (5)自分または他人の安全を考えない**無謀さ**
- (6)一貫して**無責任**であること、これは仕事を安定して続けられない、または経済的な義務を果たさない、ということを繰り返すことによって示される
- (7)**良心の呵責の欠如**、これは他人を傷つけたり、いじめたり、または他人のものを盗んだりしたことに無関心であったり、それを正当化したりすることによって示される

B群パーソナリティ障害

反社会性パーソナリティ障害

接し方のコツ、、、？

本人の言動に過剰反応しない

冷静に、距離を取った応対を心掛ける

B群パーソナリティ障害

境界性パーソナリティ障害

「DSM-5精神疾患の分類と診断の手引き」より

- (1) 現実に、または想像の中で、見捨てられることを避けようとするなりふりかまわない努力
- (2) 理想化とこき下ろしとの両極端を揺れ動くことによって特徴づけられる、不安定で激しい対人様式
- (3) 同一性の混乱：著明で持続的に不安定な自己像または自己意識
- (4) 自己を傷つける可能性のある衝動性で、少なくとも2つの領域にわたるもの（例：浪費、性行為、物質乱用、無謀な運転、過食）
- (5) 自殺の行動、そぶり、脅し、または自傷の繰り返し
- (6) 顕著な気分反応性による感情の不安定性（例：通常は2～3時間持続し、2～3日以上持続することはまれな、エピソード的に起こる強い不快気分、いらだたしさ、または不安）
- (7) 慢性的な空虚感
- (8) 不適切で激しい怒り、または怒りの制御の困難（例：しばしばかんしゃくを起こす、いつも怒っている、取っ組み合いの喧嘩を繰り返す）
- (9) 一過性のストレス関連性の妄想様観念または重篤な解離症状

B群パーソナリティ障害

境界性パーソナリティ障害

接し方のコツ

できるだけ一定の態度で接する
＝一緒になって一喜一憂しすぎない

本人に対してできることの限界をきちんときめておく

話を聞き過ぎない
＝受容や共感も適度な範囲にとどめておく

B群パーソナリティ障害

境界性パーソナリティ障害

ただし、**過剰に診断**されている可能性も、、、

例えば、リストカット、過量服薬等の自傷行動を繰り返す人



「境界性パーソナリティ障害」と、つい決めつけてしまっていないか？

自傷行動が、「生きづらさに対する**自己治療的な行動**」である可能性

背景の生きづらさについては意識しておく

B群パーソナリティ障害

演技性パーソナリティ障害

「DSM-5精神疾患の分類と診断の手引き」より

- (1)自分が注目の的になっていない状況では楽しくない
- (2)他者との交流は、しばしば不適切なほど性的に誘惑的な、または挑発的な行動によって特徴づけられる
- (3)浅薄ですばやく変化する情動表出を示す
- (4)自分の関心を引くために身体的外見を一貫して用いる
- (5)過度に印象的だが内容のない話し方をする
- (6)自己演劇化、芝居がかった態度、誇張した情動表現を示す
- (7)被暗示的（すなわち、他人または環境の影響を受けやすい）
- (8)対人関係を実際以上に親密なものと思っている

B群パーソナリティ障害

演技性パーソナリティ障害

接し方のコツ

相手の演技や嘘を、面と向かって否定しない

一方で、相手の演技や嘘に振り回されない

= 言われるままに相手方の味方になりすぎない

B群パーソナリティ障害

自己愛性パーソナリティ障害

「DSM-5精神疾患の分類と診断の手引き」より

- (1)自分が重要であるという**誇大**な感覚（例：業績や才能を誇張する、十分な業績がないにもかかわらず優れていると認められることを期待する）
- (2)限りない成功、権力、才気、美しさ、あるいは理想的な愛の空想にとらわれている
- (3)**自分が“特別”**であり、独特であり、他の特別なまたは地位の高い人達（または団体）だけが理解しうる、または関係があるべきだと信じている
- (4)**過剰な賛美**を求める
- (5)**特権意識**（つまり、特別有利な取り計らい、または自分が期待すれば相手が自動的に従うことを理由もなく期待する）
- (6)対人関係で**相手を不当に利用**する（すなわち、自分自身の目的を達成するために他人を利用する）
- (7)**共感の欠如**：他人の気持ちおよび欲求を認識しようとしなない、またはそれに気づこうとしない
- (8)しばしば他人に嫉妬する、または他人が自分に嫉妬していると思い込む
- (9)存大で**傲慢**な行動、または態度

B群パーソナリティ障害

自己愛性パーソナリティ障害

接し方のコツ

あえて相手の自己賛美をを否定せず

批判や、欠点の指摘等はつつしむ

= 自分に、攻撃の矛先を向けられないために

本人を「変えよう」などとは、思わない

C群パーソナリティ障害

回避性 (Avoidant Personality Disorder)

非難されたり拒絶されたり恥をかいたり、というリスクを回避

依存性 (Dependent Personality Disorder)

ケアされることを欲し、しがみつく

強迫性 (Obsessive-Compulsive Personality Disorder)

完璧主義、柔軟性の欠如、こだわりの強さ

C群パーソナリティ障害

回避性パーソナリティ障害

「DSM-5精神疾患の分類と診断の手引き」より

- (1) 批判、非難、または拒絶に対する恐怖のために、重要な対人接触のある職業的活動を避ける
- (2) 好かれていると確信できなければ、人との関係をもちたがらない
- (3) 恥をかかされる、または嘲笑されることを恐れるために、親密な関係の中でも遠慮を示す
- (4) 社会的な状況では、批判される、または拒絶されることに心がとらわれている
- (5) 不全感のために、新しい対人関係状況で抑制が起こる
- (6) 自分は社会的に不適切である、人間として長所がない、または他の人より劣っていると
思っている
- (7) 恥ずかしいことになるかもしれないという理由で、個人的な危険をおかすこと、または何か新しい活動にとりかかることに、異常なほど引っ込み思案である

C群パーソナリティ障害

回避性パーソナリティ障害

接し方のコツ

本人の主体性を尊重

本人からのSOSを否定せず、逃げ道を閉ざさない

否定的な言葉、「ねばならない」的な応対は避ける

C群パーソナリティ障害

依存性パーソナリティ障害

「DSM-5精神疾患の分類と診断の手引き」より

- (1) 日常のことを決めるにも、他の人達からのありあまるほどの助言と保証がなければならない
- (2) 自分の生活のほとんど主要な領域で、他人に責任をとってもらうことを必要とする
- (3) 支持または是認を失うことを恐れるために、他人の意見に反対を表明することが困難である
(注：懲罰に対する現実的な恐怖は含めないこと)
- (4) 自分自身の考えで計画を始めたり、または物事を行うことが困難である（動機または気力が欠如しているというより、むしろ判断または能力に自信がないためである）
- (5) 他人からの世話および支えを得るために、不快なことまで自分から進んでするほどやりすぎてしまう
- (6) 自分自身の面倒をみることができないという誇張された恐怖のために、1人になると不安、または無気力を感じる
- (7) 1つの親密な関係が終わったときに、自分を世話し支えてくれるもとなる別の関係を必死で求める
- (8) 1人残されて自分で自分の面倒をみることになるという恐怖に、非現実的なまでにとらわれている

C群パーソナリティ障害

依存性パーソナリティ障害

接し方のコツ

本人のすべき判断、行動を「代行」しない

対話の中で、自分自身の考えを整理できるよう援助
＝本人が答えを見つけられるように向けていく

C群パーソナリティ障害

強迫性パーソナリティ障害

「DSM-5精神疾患の分類と診断の手引き」より

- (1)活動の主要点が見失われるまでに、細目、規則、一覧表、順序、構成、または予定表にとられる
- (2)課題の達成を妨げるような**完璧主義**を示す（例：自分自身の過度に厳密な基準が満たされないという理由で、1つの計画を完成させることができない）
- (3)娯楽や友人関係を犠牲にしてまで仕事と生産性に過剰にのめりこむ（明白な経済的必要性では説明されない）
- (4)道徳、倫理、または価値観についての事柄に、過度に誠実で良心的かつ**融通がきかない**（文化的または宗教的立場では説明されない）
- (5)感傷的な意味をもたなくなっても、使い古した、または価値のない物を捨てることができない
- (6)自分のやるやり方どおりに従わなければ、他人に仕事を任せることができない、または一緒に仕事をすることができない
- (7)自分のためにも他人のためにも**けち**なお金の使い方をする、お金は将来の破局のために備えて貯めこんでおくべきものと思っている
- (8)**堅苦しさ**と**頑固さ**を示す

C群パーソナリティ障害

強迫性パーソナリティ障害

接し方のコツ

本人のこだわりは、尊重する

一方で、周囲が合わせられる限界を定めておく

= 本人のこだわりに、巻き込まれて破綻しないように

パーソナリティ障害と発達障害の違い

一時点の状況を比較して違いを見出すことは難しいですが、、、

発達障害：

生来からの特性であり、幼少期よりその特性が認められるもの

パーソナリティ障害：

一定のパーソナリティ傾向を持ちやすい素因の人が、環境の影響を受けて培われるもの

大人の発達障害とは、、、

発達障害は、低年齢より発現する特性であり、大人になってから「発症」する、ということは定義上、ありません

ただし、その特性の傾向が軽微であったり、周囲の環境に恵まれて、特段問題なく生育した場合、例えば、就職等の大きな環境変化にさらされた際に不応を生じて顕在化する場合があります

それぞれの発達特性は、大人になってからも同様の傾向が続くことから（三つ子の魂、百まで）、大人の方でも発達障害の特性を持ち続けることとなり、適応のための工夫が必要となります

内的側面（精神内界）

発達障害

衝動が抑えられないように見える

気持ちの揺れ動きが大きく見える

極端な考えをとり、ころころ変えるように見える

他人の気持ちを考えていないように見える

他者へのメッセージ性はない

情緒面が未分化

白黒思考、デジタル思考

相手がどのような感情や思考を持つか理解できない

境界性パーソナリティ障害

他者へのメッセージ性がある

情緒面が未成熟

「良い対象」と「悪い対象」

相手の内面を推測できるが、解釈が難しい

東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース下山研究室
「発達障害と境界例の精神行動特性の比較」より

外的側面（行動面）

発達障害

人との安定した関係が
作れないように見える

対象操作性は見られない

対人相互交流の不全

わかってもらいたいと「しが
みついてくる」ように見える

確認行動のための相手
への「道具的依存」

境界性パーソナリティ障害

対象操作性が見られる

対人希求性の高さや期待か
ら来る「見捨てられ不安」

見捨てられる不安による相手
への「心理的依存」

東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース下山研究室
「発達障害と境界例の精神行動特性の比較」より

演者の体感として、最近は、「パーソナリティ障害」という診断を用いる機会が少なくなっている印象

どちらかというところ「発達障害」と「双極性障害（躁うつ病）」を軸に診断される傾向が強くなっている？

（精神科の診断は、その時代によって「流行」のようなものがあります）

「パーソナリティ障害」と診断するより、治療関係を維持しやすい、という理由も、あるかもしれません

こうした特性を持つ人への対応

対応が難しい方が、すべて、「パーソナリティ障害」などの診断に当てはまるわけではありません

過度な「ラベリング」はむしろスティグマを深めることになります

仮に「境界性パーソナリティ障害」「自己愛性パーソナリティ障害」などの診断が医療機関でついている人も、**それ以外の側面を必ず持っています**

どなたに対してもそうですが、、、

相手に対する、**リスペクト** を忘れずに

その上で、、、

- ・ 正当な理由であれば、多少厄介でも応じる努力が必要です
- ・ 話が一方的で理解しがたい場合でも、節目節目で整理し、まとめつつできるだけ話を聞ききましょう（メモをとるなど、きちんと聞いている、という姿勢を示すことも、きちんと聞いてもらえている、という安心感を与えます）
- ・ ただし、安易に要求を呑むとエスカレートするので、できないことは「できない」とはっきり伝えましょう（代替案があれば、提示してみましょう）
- ・ 話す内容は、実務の範囲に絞り、議論は避けましょう

- ・ 1人で対応できないようであれば、応援を呼びましょう
- ・ 明らかに常軌を逸した要求（土下座しろ等）は、毅然として拒否しましょう
- ・ 明らかな暴力や不当な居座り等あれば、警察に通報しましょう

理想的には、上記の状況にならないよう、日々の対応の中で、**信頼関係**を作っていくことが一番です

対応に当たっての気持ちの整理について

対応が難しい方に相対した際に抱きがちなのが、

陰性感情

陰性感情とは、

相手に対する

苦手、 避けたい、 やりにくい、 嫌い、、、

要は、ネガティブな感情の総称

陰性感情が芽生えるのは、

ある意味、やむをえないこと

ただ、自分の抱いている、その陰性感情に、

「気づいておくこと」

が、とても大切になります

「ああ、自分は、この人を、

『嫌だ』 と思っているんだな」

と、感じ取れるもう 1 人の自分が、

その人に対する自分の言動を、

コントロールしてくれます

自分の感情を客観視する自分、

もう 1 人の自分を、
しっかり、育てていきましょう！